

第1章

can と could

法助動詞の can は中学で必ず習う項目ですから、皆さんにとっていちばんなじみ深い助動詞の一つです。can の意味は？と聞かれば、即座に「～できる」と答えられると思います。ここで終われば、話はすごく簡単なのですが、ちょっと踏み込んで見ると can の実態はそんなに簡単ではないことがわかります。例えば、日本語の「～できる」の過去形は「～できた」ですが、その意味で could を使うと、間違いになってしまうことが多いです。

また、「～できる」という意味以外にも重要な意味が can にはあります。例えば「～かもしれない」とか「～してよい」などです。

この章では can に関係する問題点、特に皆さんが誤解していそうな点をすべて洗い直したいと思います。

1-1 能力・達成を表す can / could / be able to

1 can の過去: 「～できた」は could でいいのか

could への理解度を測るために、まず問題を解きましょう。

【問題1】 次のカッコ内に could か was able to を入れなさい。
ただし、両方入れられるときには2つとも選びなさい。

1. Ten years ago, I (could / was able to) drive to the office in half an hour.
「10年前は、会社までは車で30分で着けた」
2. It was snowing heavily yesterday morning, but I (could / was able to) drive to the office in half an hour.
「昨日の朝は豪雪だったが、会社まで車で30分で着けた」

大ざっぱに、皆さんの解答の傾向は2つのグループに分かれるような気がします。

- グループA: どちらにも was able to だけ入れた
- グループB: どちらにも was able to と could 両方を入れた

もちろん、違う答えの人もいるでしょうが。

グループAの人の考えは、おそらく「could は助動詞だから、過去形であっても過去の意味を表せない」と思ったのだと思います。

グループBの人は「can と am [is / are] able to は同じであり、

can の過去が could だから、could = was [were] able to だ」と思ったのでしょうか。

しかし正解は、

1には could でも was able to でも入れられます。

2には was able to だけしか入りません！

なぜでしょう？

2 could が「～できた」を表すこともまれにあるが...

could が、過去の文脈で(つまり「～できた」の意味で)使えるのは、「過去の一般的なことがらに対する能力」※を表すときです。(was [were] able to もそのときには使えますが)

could が過去の文脈で使えないのは、「過去の個別のことがらに対する達成」について述べるときです(そのときにも was [were] able to は使えます)

※ 本書では「能力」という用語で、主に以下の2つを表します。

① 内在的に人が持っている、ある行為を行える能力:

I can swim.

「私は泳げる(☞ 泳ぎ方を知っている)」

② 外的状況によって、その人がある行為を行うことができること:

You can swim here if you have a permit.

「許可証があればここで泳げます(☞ 泳いでもよい)」

「過去の一般的なことがらに対する能力」と「過去の個別のことがらに対する達成」とは、何のことを言っているのでしょうか?? このことば遣いでわかる人もいるかもしれませんが、わからない人

の方が多いと思います。

「一般的なことがら」と「個別のことがら」の区別についての話は、まず次の問題をやったあとで考えることにしましょう。

【問題2】 次のカッコ内に、could か was able to を入れなさい。ただし、両方入れられるときには2つとも選びなさい。

1. At noon, Bill (could / was able to) reach the top of Mt. Fuji.
「正午には、ビルは富士山頂に到達できた」
2. At the age of three, Tom (could / was able to) read hiragana.
「3歳のときにトムはひらがなが読めた」

さあ、どちらが「一般的ことがらに対する能力」で、どちらが「個別のことがらの達成」なのでしょう？

「個別のことがら」ということばが意味しているのは「**過去のある特定の状況で、あることができた**」ということです。簡単に言うと、「**1回こっきりの行為を実現できた**」という意味です。

この【問題2】で言うと、富士山に登頂できたというのは、ある特定の行為です。**過去のある時点で一度生じた行為**です。それを実現したときに「個別のことがらの達成」と呼びます。

一方、トムがひらがなを読めたのは、1回こっきりの出来事ではなく、3歳のとき、いつでもどこでもふつうにひらがなを読むことができたのです。ひらがなを読む能力が**すでに備わっていた**のですね。ある特定の出来事に限定したものではありません。それを過去の「**一般的な能力**」と呼びます。

解答は、1. was able to 2. could / was able to になります。

1. (◎) At noon, Bill **was able to** reach the top of Mt. Fuji.
「正午には、ビルは富士山頂に到達できた」

2. (◎) At the age of three, Tom **could / was able to** read hiragana.

「3歳のときにトムはひらがなが読めた」

同様の観点から、先の【問題1】も振り返ってみましょう。

どちらの文も会社に自動車通勤するという点では同じですね。違うのはただ一点、1は10年前に行っていた日常的な（毎朝の）行為であり、2は昨日の朝に行った1回だけの行為です。つまり1は過去の一般的な行為であり、2は過去の個別の行為、という分類になります。一般的な行為を「できた」場合には could（または was [were] able to）が使われ、一方、個別の行為を「できた」場合には was [were] able to だけが使われるのでしたね。

1. (◎) Ten years ago, I **could / was able to** drive to the office in half an hour.
「10年前は、会社までは車で30分で着けた」
2. (◎) It was snowing heavily yesterday morning, but I **was able to** drive to the office in half an hour.
「昨日の朝は豪雪だったが、会社まで車で30分で着けた」

3 個別の行為を表す could はないのか

およそどんな分野であっても、例外のない規則はありませんから、could のこの用法（過去の一般的な能力を表すから、「あることを1回できた」の意味では使えない）にも例外があるのではないかとあなたは疑ったかもしれません。そして実際、例外が存在します。

could は「過去の一般的な行為への能力」を表し、「過去の個別の行為の達成」は表さないのが原則でした。

しかし、<could + 知覚動詞>のパターンで、しかも知覚動詞が本来の「**五感を通じて感覚を受けとめる**」の意味で使われている場